



株式会社 スズキ自販島根

一人一人のベネフィットを大切に
暮らしを豊かにする車を提案

24
LEADING
COMPANY

人とクルマをつなげる
《SUZUKI》の
メーカー直営代理店

「小さなクルマ、大きな未来」を
コーポレートスローガンに、軽自動
車分野で画期的な製品を送り出して
きたスズキ。大ヒットを記録した
《アルト》、SUV軽自動車人気をけ
ん引する《ジムニー》や《ハス
ラー》、走りの良いコンパクトカー
として定評のある《スイフト》な
ど、100年を超える歴史で生み出
された名車は枚挙に暇がない。

加速するカーボンニュートラルの
動きを背景に、電動化技術の開発に
も注力。そんなスズキブランドの車
を島根県で専門的に扱うのが《スズ
キ自販島根》だ。スズキが100
%出資する直営企業で、1969年
の設立以来、メーカーとユーザーを
つなぎ、拠点を拡大しながら地域密
着の営業活動を行っている。

「社員とおお客様の両方を幸せにす
るためにどうすべきか、と常に考え
ています。ES（従業員満足）が上
がらなければ、お客様に満足してい
ただけるサービスを提供できません。
高額な買い物をしていただくので
す。それに見合ったサービスをお届
けしないと喜んでもらうことはでき
度もある。

分が成長すればお客様にもよりよい
サービスを提供できる。まずはチャ
レンジしてほしい」。同社には、ベ
ン字から語学まで多彩な分野を通信
教育で学べ、かかった費用の半額
（上限2万円）は会社が補助する制
度もある。

チャレンジを呼び掛ける智口社長
の声を受け、スズキ自販島根が創立
以来の快挙を成し遂げた。《スズキ
サービス技能競技大会中国ブロック
大会》で初優勝したのだ。「選抜し
た2人の社員がよく頑張ってくれ
て、本当に感動しました。結果も嬉
しかったですが、常勝集団に果敢に
挑戦したことをまず称えたいです
ね」。感動は、次の感動を生む。2
人のチャレンジは、きつと社内に広
がっていくはずだ。

東証一部上場企業であるメーカー
主導のもと福利厚生も充実してい
る。全社員の健康診断の義務化、有
給休暇の取得の奨励、残業時間の削
減、出産・育児休業はもちろん、子
どもが体調不良の時に早退や休暇
を取得できる。スズキ自販島根の場
合、有給休暇取得は平均12日以上を
実現。男性社員の育児休業も推奨
し、1カ月間取得した社員もいる。

スズキの強みである軽自動車ユー
ザーは女性が多く。しかし、社員に
占める女性の割合は多くなく、同社

ません」。そう語るのには、営業マン
として全国各地を飛び回ってきた智
口洋紀社長だ。「大切なのは、顔が
見えない市場全体のニーズではな
く、一人一人のお客様のベネフィッ
ト。あなた、を想う気持ちが伝わ
り、心に響いた時、結果としてセー
ルスにつながるのです」

顧客の感動を生むためには、社員
の成長が不可欠だ。智口社長が今春
島根に赴任後、まず幹部社員に伝え
たのが、「社員の話を聞くこと。ど
んな内容であっても決して責めない
こと」だった。「思ったことを発言で
きる土壌がまず大事。受け入れられ
るか否かはその時々でジャッジして
いくのですが、活発な意見が飛び交
うことはいい会社の条件です」

果敢なチャレンジが
高い顧客サービスを創出

社員が成長しなければ、顧客への
高いサービスも提供できない。スズ
キブランドを扱うディーラーとし
て、社員の教育体制は充実してお
り、メーカーとの合同研修のほか、
独自に研修も実施。自動車検査員な
どの各種資格取得の奨励や、準中型
自動車免許取得もサポートしてい
る。その上で、智口社長が推進する
のが、自己啓発という形での従業員
の能力開発やスキルアップだ。「自

でも社員172人中、女性は40人
だ。そこで《女子改》という女性社
員によるチームを組織し、メンバー
の意見を積極的に取り入れたサービ
ス向上に力を入れている。「たとえ
ば、お客様の車にシートカバーをつ
けるようになりました。直接座ると
僕らの汗が気になるという指摘でし
た。今まで気づけなかった視点をも
らい、店つくりやサービスが随分向
上したと思います」

スズキ自販島根では、店舗を横断
する15人の女性社員が、スズツ娘
しまねの愛称で月に1回活動。
キャラバン隊を組んで各地を回り、
地域の魅力をPRするなど地域活性
化にも注力する。

島根での暮らしには、車が欠かせ
ない。「なくてはならない生活必需
品であり、暮らしを豊かにしたり、
便利にしたりする力もある。そんな
アイテムに関わるのは、この仕事
の醍醐味です」



「社員とお客様を大切に社会に
必要とされる会社を目指しています」と話す智口社長。大切にしているのは
「フェアにとことんこだわること」



株式会社 スズキ自販島根

業種 卸売・小売業

事業内容 新車・中古車の販売、自動車整備、部品用品販売、電動車いす販売、保険代理店業務

創業 昭和44(1969)年1月

代表者 代表取締役 智口 洋紀

社員数 172名(男132名 女40名)

〒690-0011

島根県松江市東津田町1888-10

TEL/0852-21-5111

<https://www.suzuki.co.jp/dealer/sj-shimane/>

●本社/松江営業所/スズキアリーナ東津田

●スズキアリーナ安来

●スズキアリーナ黒田

●出雲営業所/スズキアリーナ出雲

●スズキアリーナ斐川

●浜田営業所/浜田店

●スズキアリーナ益田

●パーツセンター島根

求める人材像



- 誠実に仕事ができる方
 - 成長したいという思いがある方
 - ルールを守れる人
- 皆様をお待ちしております。

資料請求・お問い合わせ先

採用直通 TEL

0852-21-5111

採用直通 E-mail

aisikawa@j-shimane.sdr.suzuki

資料請求

インターンシップ

会社見学

店内の3D映像は
こちら



公式サイトは
こちら



1 2022年10月にオープンした新店舗《アリーナ出雲》。広々とした整備工場には最新の設備を導入し、各種車両の整備に万全に対応する 2 店舗の一角には県内で初めて納車専用の部屋を設置。天候に左右されることなく、記念すべき特別な時間を堪能することができる 3 ピカピカのショールームには、キッズスペースのほか大型モニター付きの商談スペースも

電動車いす交通安全指導で警察庁交通局長から表彰

公共交通機関の便が悪い山陰地方において、自動車は生活必需品。通勤や買い物などにはもちろん、レジャーや産業、文化の発展にもなくてはならないアイテムだ。一方、身体能力の低下などを理由に運転免許を手放す高齢者も増えている。そんな中、注目を集めているのが、シニア向けの電動車いすだ。

スズキは約半世紀前から電動車いすの開発に着手し、12年後には国内で初めてハンドル型電動車いす《セニアカー》を発売。改良を重ねて、使いやすさや安全性が向上し、日常の移動手段として好評を博している。スズキ自販島根は2021年度、電動車いす交通安全指導に尽力した

として警察庁交通局長から表彰された。智口社長は、「社員の地道な努力が評価されました。免許返納などで外出の機会が減った方々にセニアカーを使ってもらい、生活を豊かにしてほしい」と話す。

智口社長が一つのエピソードを紹介してくれた。ある地域で津波を想定した避難訓練をしたところ、セニアカーを利用している人は避難場所まで出向こうとしたが、ない人は避難を諦めたという。「自分で出かけるための手段があれば、諦めていたことにもチャレンジできるのです。まだまだ認知度が低いので、もっと浸透させたい。現在、異業種と連携し、新たな活用方法なども考えているという。生活必需品だからこそ、地域に貢献できる形もさまざま。今後もスズキ自販島根の挑戦が続く。

プロ集団が支える豊かなカーライフ



出雲営業所販売 井田 政美さん(2009年入社)

信頼関係から生まれる高品質なサービス

町の自動車店への卸売営業として雲南エリアを担当。エンドユーザーの顔が見えないため、難しく感じることはあります。しかし販売店様との信頼関係を築くことで、スムーズな提案やサービスに結びつけることができると考えています。大切なのは誠実さです。社内では労働組合委員長として、社員を支えていけるよう取り組んでいます。



アリーナ出雲店長 玉木 圭一郎さん(2008年入社)

お客様に喜ばれる新店舗に

2022年秋にオープンした《アリーナ出雲》の店長を任せられました。新店舗には、島根県内で初めて納車専用の部屋を完備。特別な時間を特別な場所で堪能してもらえれば、と思っています。スタッフのモチベーション維持は店長の大事な仕事。声を吸い上げ、よりよい職場になるよう上司に進言するなどしています。



アリーナ出雲直販 永見 浩平さん(2016年入社)

ライフスタイルの先を読んで商品を提案

車は高額で、長年使ってもらうアイテム。お客様のライフスタイルを把握し、購入時だけでなく、その先のニーズも考えて提案させていただくことで喜んでもらえる点にやりがいを感じます。大学時代の友人からは「人間が丸くなったね」と言われます。お客様とのコミュニケーションを通して、人間として成長させていただいています。



電動車いす課 落合 博文さん(1998年入社)

高齢者の生きがいをサポート

8年前からハンドル型電動車いす《セニアカー》の営業や安全指導に携わっています。福祉用具専門相談員の資格を保有。安全第一ですので、ご自宅周辺での試乗にお付き合いです。ルート選びのアドバイスもしています。細仕事やごみ出し、買い物など、高齢になっても今まで通りの暮らしを続けられるよう、セニアカーでサポートできることに喜びを感じます。



アリーナ出雲整備事務 三原 弓子さん(2021年入社)

転職してプライベートも充実

飲食業から転職。家族と過ごす時間が増えました。整備関係の伝票処理など事務を担当しています。車の専門知識を増やし、幅広い業務にチャレンジしたいです。



アリーナ出雲サービス課 福島 結人さん(2021年入社)

スピーディかつ確実な作業でお客様に笑顔

スピーディに整備を終えて、お客様に喜ばれた時はうれしいですね。さらに経験を積んで、早く先輩たちのように、音を聞いただけで不具合の原因が分かったり、お客様により分かりやすく説明ができたりするようになりたいです。



パーツセンター島根 部品課 林 志信さん(1997年入社)

膨大な数のパーツをスムーズに供給

スズキ車を取り扱う県内の自動車整備工場への部品出荷を担当。古い車はデータがなく、約四半世紀前のカタログとにらめっこすることも。膨大な数の部品をスムーズに供給できるよう心掛けています。